

## 平成23年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成22年11月5日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ADEKA

コード番号 4401 URL <http://www.adeka.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 櫻井 邦彦

問合せ先責任者 (役職名) 法務・広報部長

(氏名) 安田 晋

TEL 03-4455-2803

四半期報告書提出予定日 平成22年11月12日

配当支払開始予定日

平成22年12月3日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成23年3月期第2四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第2四半期	86,079	12.0	7,359	76.4	7,027	86.6	3,727	82.4
22年3月期第2四半期	76,871	△23.4	4,171	△34.2	3,765	△39.4	2,042	△34.2

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第2四半期	36.08	—
22年3月期第2四半期	19.78	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第2四半期	206,469	124,762	58.9	1,176.61
22年3月期	203,208	123,159	59.0	1,161.08

(参考) 自己資本 23年3月期第2四半期 121,531百万円 22年3月期 119,928百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	9.00	—	11.00	20.00
23年3月期	—	11.00	—	—	—
23年3月期(予想)	—	—	—	11.00	22.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

### 3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	177,000	10.6	13,500	32.3	13,200	28.5	7,500	10.5	72.61

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 有

4. その他（詳細は、【添付資料】P.4「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	23年3月期2Q	103,651,442株	22年3月期	103,651,442株
② 期末自己株式数	23年3月期2Q	362,071株	22年3月期	360,838株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	23年3月期2Q	103,290,009株	22年3月期2Q	103,293,442株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などは様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. その他の情報 .....	4
(1) 重要な子会社の異動の概要 .....	4
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要 .....	4
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要 .....	4
3. 四半期連結財務諸表 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書 .....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	9
(5) セグメント情報 .....	9
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	9

## 1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

## (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間(平成22年4月1日から同年9月30日まで)のわが国の経済は、景気刺激策などによる個人消費の改善や、企業収益の回復に伴う設備投資の持ち直しなど緩やかな景気回復の動きが見られましたが、期後半は米国景気の減速懸念や急激な円高など景気の先行きに不透明感が強まってまいりました。

当社グループ事業の主要対象分野である自動車関連、IT・デジタル家電分野におきましては、海外経済の改善や景気刺激策などにより需要は好調に推移しました。また、国内の加工油脂分野におきましては、期前半は堅調に推移してきましたが、夏場にかけては猛暑により需要は減少しました。

このような経営環境のなか、当社グループは、2010年標語の「こだわれば業績 一枚岩で明日を拓け」のもと、グループ全社員が目標と情報を共有して一枚岩となって、引き続き新製品開発、戦略製品の拡販、海外販路拡大、コスト削減などの諸施策に取り組み、業績向上に一段の努力を重ねてまいりました。

当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は860億79百万円(前年同期比12.0%増)、営業利益は73億59百万円(同76.4%増)、経常利益は70億27百万円(同86.6%増)、四半期純利益は、37億27百万円(同82.4%増)となりました。

報告セグメント別の概況は、次のとおりです。

## (化学品事業)

当事業の売上高は、596億73百万円(前年同期比22.0%増)、営業利益は61億5百万円(同165.3%増)となりました。

## ①情報・電子化学品

半導体材料は、パソコンなどに搭載されるメモリの生産量増加および大容量・微細化の進展に伴い、高誘電材料を主体に国内外で大きく伸張しました。超微細回路形成用エッチング薬液や光硬化樹脂、高純度ガスなど液晶フラットパネルに使用される各種材料は、期の後半には、在庫増加による液晶フラットパネルの生産調整の影響を受けましたが、総じて好調に推移しました。以上の結果、情報・電子化学品全体では、前年同期に比べ増収増益となりました。

## ②機能化学品

樹脂添加剤は、自動車関連や家電などの樹脂の需要増加に伴い、期前半は可塑剤はじめ全般に好調に推移しました。夏過ぎからは一部製品で生産調整の影響を受け、伸びが緩やかになりましたが、期を通しては総じて好調でした。界面活性剤は化粧品や塗料向けなどを主体に伸張し、潤滑油添加剤も環境に配慮した自動車の生産増加などに伴い、堅調に推移しました。エポキシ樹脂や環境対応の水系樹脂は、自動車や鉄鋼製品の需要増加に伴い、塗料向けを中心に伸張しました。以上の結果、機能化学品全体では、前年同期に比べ増収増益となりました。

## ③基礎化学品

プロピレングリコール類や過酸化製品などの基礎化学品は、原材料価格上昇の影響を受けたものの、化学産業の回復に伴い販売は堅調に推移し、前年同期に比べ増収増益となりました。

## (食品事業)

当事業の売上高は、246億5百万円(前年同期比1.8%減)、営業利益は10億74百万円(同34.5%減)となりました。

市場ニーズを捉えたバター風味豊かなマーガリン「アロマーデ」シリーズは、前年同期に比べ大きく伸張しましたが、当事業全体では、デフレ環境下で浸透した低価格化や今夏の猛暑による需要減少の影響などにより減収となりました。利益面では、子会社の収益改善やコスト削減に引き続き努めてまいりましたが、低価格化対応に加えて、一段と上昇した原材料価格の影響を受け、減益となりました。

## (2) 連結財政状態に関する定性的情報

## ①資産、負債および純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ32億61百万円増加し、2,064億69百万円となりました。売上債権の増加が主な要因であります。

負債は前連結会計年度末に比べ16億58百万円増加し、817億7百万円となりました。仕入債務の増加が主な要因です。

純資産は当四半期純利益の大幅な増益により、前連結会計年度末に比べ16億2百万円増加し、1,247億62百万円となりました。

## ②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前連結会計年度末の資金残高に比べ9億64百万円減少し、225億42百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、以下のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動による資金の増加は60億45百万円となりました。

これは、税金等調整前四半期純利益、減価償却費および仕入債務の増加による資金の増加が、売上債権の増加および棚卸資産の増加などによる資金の減少を上回ったことが主因であります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動による資金の減少は60億40百万円となりました。

主に定期預金への預入および有形固定資産の取得に伴う支出による減少であります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動による資金の減少は6億78百万円となりました。

主に配当金の支払による減少であります。

## (3) 連結業績予想に関する定性的情報

今後の当社グループを取り巻く事業環境は、過度な円高進行、世界景気下振れ懸念などを背景に、対象市場での需要が下押しされるリスクが存在し、かつ、原材料価格が上昇基調にあるなど、依然として先行き不透明な状況が続くと予想されます。

このような状況のなか、当社グループは、コア事業である樹脂添加剤事業と食品事業のさらなる競争力強化を図ります。また、成長事業の情報・電子化学品におきましては、市場ニーズを先取りし、固有技術を活かした新製品開発を促進してまいります。

「情報・電子」、「エネルギー」、「環境」、「ライフサイエンス」の4分野を中長期的に成長が見込めるターゲット分野として、引き続き、競争優位性のある製品開発、海外展開の加速、新たな事業領域の拡大に取り組み、より一層の業績向上に努めてまいります。

通期連結業績予想につきましては、当第2四半期連結累計期間の業績を踏まえ、下表の通り修正いたします。

[通期連結業績予想]

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益 (円)
前回発表予想 (A)	177,000	12,000	11,800	7,400	71.64
今回修正予想 (B)	177,000	13,500	13,200	7,500	72.61
増減額 (B-A)	0	1,500	1,400	100	-
増減率 (%)	0.0	12.5	11.9	1.4	-
22年3月期 (実績)	159,997	10,203	10,270	6,788	65.73

## 2. その他の情報

### (1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

### (2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

法人税等の納付税額の算定に関しては、加減算項目や税額控除項目のうち、僅少なものを省略する方法によっております。

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異などの発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

### (3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

資産除去債務に関する会計基準の適用

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）および「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	25,842	24,822
受取手形及び売掛金	38,535	36,199
有価証券	7,625	6,647
商品及び製品	13,127	11,717
仕掛品	3,226	3,433
原材料及び貯蔵品	12,515	12,150
その他	5,195	4,884
貸倒引当金	△279	△287
流動資産合計	105,789	99,567
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	18,823	19,115
機械装置及び運搬具(純額)	21,972	23,098
土地	20,663	20,713
その他(純額)	6,783	6,976
有形固定資産合計	68,243	69,903
無形固定資産	3,662	3,705
投資その他の資産		
投資有価証券	22,511	24,022
その他	6,263	6,010
投資その他の資産合計	28,774	30,032
固定資産合計	100,680	103,641
資産合計	206,469	203,208

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	30,987	28,488
短期借入金	14,664	13,987
未払法人税等	2,175	2,122
賞与引当金	1,924	1,974
その他	4,932	5,684
流動負債合計	54,685	52,257
固定負債		
長期借入金	10,455	10,951
退職給付引当金	8,389	8,499
役員退職慰労引当金	142	177
その他	8,035	8,162
固定負債合計	27,022	27,791
負債合計	81,707	80,049
純資産の部		
株主資本		
資本金	22,899	22,899
資本剰余金	19,925	19,925
利益剰余金	76,529	73,940
自己株式	△224	△223
株主資本合計	119,130	116,542
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	728	1,278
土地再評価差額金	3,333	3,333
為替換算調整勘定	△1,660	△1,226
評価・換算差額等合計	2,400	3,386
少数株主持分	3,230	3,230
純資産合計	124,762	123,159
負債純資産合計	206,469	203,208



(2) 四半期連結損益計算書  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
売上高	76,871	86,079
売上原価	60,232	65,028
売上総利益	16,639	21,051
販売費及び一般管理費	12,467	13,691
営業利益	4,171	7,359
営業外収益		
受取利息	76	46
受取配当金	132	146
持分法による投資利益	—	76
その他	315	126
営業外収益合計	524	395
営業外費用		
支払利息	266	192
為替差損	171	296
持分法による投資損失	272	—
その他	221	238
営業外費用合計	931	727
経常利益	3,765	7,027
特別損失		
有形固定資産除却損	165	120
投資有価証券評価損	4	547
損害補償損失引当金繰入額	220	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	101
特別損失合計	390	769
税金等調整前四半期純利益	3,375	6,258
法人税、住民税及び事業税	975	2,338
法人税等調整額	287	62
法人税等合計	1,262	2,401
少数株主損益調整前四半期純利益	—	3,857
少数株主利益	69	130
四半期純利益	2,042	3,727

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	3,375	6,258
減価償却費	3,802	3,945
投資有価証券評価損益(△は益)	—	547
有形固定資産除却損	165	120
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	101
受取利息及び受取配当金	△208	△192
支払利息	266	192
為替差損益(△は益)	36	190
持分法による投資損益(△は益)	272	△76
損害補償損失引当金繰入額	220	—
売上債権の増減額(△は増加)	△2,868	△2,815
たな卸資産の増減額(△は増加)	4,272	△1,987
仕入債務の増減額(△は減少)	△1,695	2,993
その他	△707	△1,234
小計	6,930	8,043
利息及び配当金の受取額	279	390
利息の支払額	△250	△193
法人税等の支払額	△342	△2,194
法人税等の還付額	425	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,042	6,045
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	—	△2,336
有価証券の売却及び償還による収入	—	8,021
有価証券の取得による支出	△4,995	△8,994
有形固定資産の取得による支出	△2,216	△2,593
無形固定資産の取得による支出	△775	△353
投資有価証券の取得による支出	△89	—
関係会社株式の取得による支出	△192	—
その他	619	214
投資活動によるキャッシュ・フロー	△7,649	△6,040
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△923	975
長期借入れによる収入	7,080	—
長期借入金の返済による支出	△400	△372
配当金の支払額	△932	△1,139
その他	△106	△141
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,716	△678
現金及び現金同等物に係る換算差額	123	△291
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	4,233	△964
現金及び現金同等物の期首残高	17,862	23,507
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	183	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	22,278	22,542

(4) 継続企業の前提に関する注記  
 該当事項はありません。

(5) セグメント情報

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、分離された財務情報が入手可能であり、当社の取締役会が、経営資源の配分の決定および業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、製品・サービス別に区分した「化学品事業」「食品事業」ごとに国内および海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社グループでは、「化学品事業」「食品事業」の2つを報告セグメントとしております。

各報告セグメントの主要製品は、以下のとおりです。

化学品事業・・・画像・光記録材料、高純度半導体材料、ポリオレフィン用添加剤、塩ビ用安定剤、難燃剤、エポキシ樹脂、水系樹脂、界面活性剤、潤滑油添加剤、か性ソーダ、プロピレングリコール、過酸化水素など

食品事業・・・マーガリン類、ショートニング、フィリング類など

2. 報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報

当第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年9月30日)

	報告セグメント			その他 (百万円) (注1)	合計	調整額 (百万円) (注2)	四半期 連結損益 計算書 計上額 (百万円) (注3)
	化学品 事業 (百万円)	食 品 事 業 (百万円)	計 (百万円)				
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	59,673	24,605	84,279	1,799	86,079	—	86,079
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	110	29	139	5,296	5,436	(5,436)	—
計	59,783	24,635	84,419	7,096	91,515	(5,436)	86,079
セグメント利益	6,105	1,074	7,180	143	7,323	35	7,359

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、工事および工事管理、物流業、不動産業などを含んでおります。

2 セグメント利益の調整額35百万円は、セグメント間取引消去額を含んでおります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)および「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記  
 該当事項はありません。